



ミヤマクワガタ号

☆☆☆ 新連載 ☆☆☆

北の国から ~自己紹介~ 瀧本宏昭

初めての人をはじめまして、初めてじゃない方はお久しぶりです。たつきーこと、瀧本宏昭です。

私は、昨年度まで横浜自然観察の森で働いていましたが、4月から転勤して北海道苫小牧市にあるウトナイ湖サンクチュアリというところで働いています。北海道の情報を侍従会へということで、会報担当の河本さんにお誘いいただき連載することになりました。今後この連載では、苫小牧市を中心とした北海道の自然情報（野鳥や植物が中心？）を書いていこうと考えています。今回の連載では、自己紹介を兼ねて生活している場所について簡単にお伝えします。

上に書いた通り、私は北海道苫小牧市に住んでいます。市は、札幌から約1時間、新千歳空港から約30分の太平洋側に面し、工業を主産業とした港町です。野球選手の田中将大さんの出身高校である駒大苫小牧高校がある場所として名前は聞いたことがあるでしょうか。

(編集部注：私が子どもだった頃は、お休みします。)



ミヤマクワガタ (深山鋸形)
学名: *Lucanus maculifemoratus*
分布: 北海道、本州、四国、九州
体長: ♂31~78mm、♀25~46mm
山地に多いクワガタムシで和名の“ミヤマ (深山)”はそれに由来します。頭に大きな王冠のようなでっぱりがあり、ノコギリクワガタについて人気者のクワガタムシです。侍従川流域では主に流域沿いにある傾斜地や里山でよく見つかります。
熊井 健

そんな苫小牧市の周りには比較的大きな森林や勇払原野と呼ばれる湿地帯があり、そのような場所に約30分でアクセスできます。そのうちのひとつに、私が働いているウトナイ湖サンクチュアリがあります。

ここはラムサール条約という、湿地などの水辺を利用する水鳥を守るための、国際条約に登録されています。この湖の目玉は、秋と春のマガンなどの水鳥の渡りです。多い時には10万羽が、本州へ渡る中継地として飛来します。そんなウトナイ湖やその周辺を利用する野鳥を調査・記録するのが、私の仕事です。

この地域は平地にシラカバが自然に生え、長野県などの高原のような気温の場所です。本州とは海を隔てているので、神奈川県とは違った生きものたちを観察でき、日々感動しています。

この連載では、そんな場所の自然や生き物たちの紹介をしていきたいと思います。新緑の中、エゾハルゼミの鳴き声が聞こえるウトナイ湖より。



ウトナイ湖サンクチュアリ
ネイチャーセンター



エゾハルゼミの写真が無い
のでエゾリスの写真を



ネイチャーセンターから
ウトナイ湖を望む

3月定例クリーンアップ

【活動報告1】

3月27日(日) 9:00~10:30 晴れ 10℃

朝比奈橋~大道橋~大道東橋~六浦2号

細川一雄

参加者：長野政治、中山吉雄、長橋輝明、西澤博厚、角田繁、石渡博、八木場紀元、村田章夫、関場俊子、中村健二、石塚正夫、柴田繭子、柴田真菜、柴田幸成、細川一雄 (計15名)

桜の開花が昨年より更に早い3月22日に宣言され、5日後のクリーンアップ当日は桜が満開になっていると予想していましたが、その後の花冷えで3本の木のうち1本が五分咲き、残りの2本は二分咲き程度でした。今回は子ども会議と日程が重なってしまいましたので、子ども達の参加は2名でした。また久しぶりに長橋さんと中山さんが顔をみせてくれました。

事前に清掃が行われていたようで、下流方面にはゴミが殆ど無いとの話でしたので下流方面には細川1名で清掃に出発、他のメンバーは上流の清掃に向かいます。前日まで大潮

で、当日は中潮でしたが春の潮は大きく引きます。下っていくと六浦2号橋まで入れる状態でしたのでそこから作業を開始しました。2号橋の下には沢山のペットボトルが落ちていました。大道東橋の下には大きなトタンの板が落ちていました。とても1人では持ち上げられませんので、降り口の近くに立てておいて後日引き上げる事にして作業続行です。

長島橋まで上っていくと柴田さん親子が合流してゴミを拾ってくれました。ゴミが余り無いとの話でしたが実際に川に入ってみると思いのほかゴミが見つかります。千歳園に到着する頃にはゴミが土嚢袋いっぱいになっていました。すでに上流組も作業を終わり千歳園に上がっていました。

また、加倉橋の下でどろどろになった財布を拾ったとのことで大道交番に持っていきました。すぐに終わると思っていたのですが、どうやら鎌倉で引ったくりに遭った人の財布の様でいつもの拾得物の処理とは手続きが違いました。事件の遺留品という扱いになるので色々な手続きがあり40分近く交番で待たされました。

公園に戻るとお花見が既に始まっていました。会費を集めて2時間ほど桜を愛でて?本日の作業を終了しました。



大道東橋下のトタン板



回収したゴミ袋
(6袋分)

第30回横浜の水辺と緑を考える子ども会議

3月27日(日) 黄金町Eかいだん広場

【活動報告2】

高橋一太(中1)

3月27日に「第30回横浜の水辺と緑を考える子ども会議」が行われました。

午前中の自然会議では「各団体の活動している場所の生き物の様子と活動の成果と課題について」というテーマで話し合いをしました。まず最初に各団体の活動紹介をしました。今回の参加団体は、ガールスカウト、舞岡中、侍従会などでした。次に各団体の主な活動場所に多い問題点を出し合いました。

どの団体も1番多かったのはゴミ問題でした。

「ゴミをどうすれば減らせるか」、「ゴミを捨てさせないためにはどうすれば良いか」など意見が飛び交いました。最終的には「もっと地域の人が川に入る様に成れば個人の意識が高まるから、ゴミを捨てなくなる。」



そのためには、自分たちの活動をもっと地域の人に知ってもらおう」というような意見にまとまりました。

午後にはワークショップがありました。

ワークショップでは、トウキョウサンショウウオやウナギなど、事前に有志で捕まえてきた生き物を展示して、多くの人にみてもらうことができました。



僕たちが自然会議をしている間も今井さんには、ワークショップを頑張ってもらいました。僕はカエルを着て呼び込みをして、楽しませていました(笑)

大反響だったのでまた次回も楽しみです♪

4月定例クリーンアップ

【活動報告3】

4月24日(日) 13:00~15:00 曇り

朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者：長野政治、西澤博厚、角田繁、石渡博、八木場紀元、村田章夫、中村健二、石塚正夫、山田陽治、柴田繭子、柴田真穂、柴田真菜、柴田幸成、鳥越昌三、鳥越龍、小野恵理(区政推進課広報相談係)、今井康祥、今井幸子、今井翔太、今井はるか、林友美、林叶恵、林正朗、林正隆、細川一雄(計25名)

当日は午前中が雨模様でしたので、開始時間を遅らせて午後1時から開始に変更しました。雨の日だからなのか傘が5本と多く回収され、さらに大道東橋下に落ちていた1.2m四方の錆だらけの掲示板を回収しました。



地藏前橋下
上流の清掃に向かって

今回は金沢区役所の総務部 区政推進課 広報相談係の小野 恵理さんが横浜市広報紙の7月号と8月号で侍従川の紹介記事を掲載したいとの話でしたので、今回の清掃を体験してもらいました。どんな記事が載るのか楽しみです。

清掃活動終了後、何時も回収したゴミを置いている県営住宅跡地(「大道町内会」と「侍従川に親しむ会」と連名で神奈川県から借用している場所)の道路側をメインに草刈りを行ないました。何時も大道町内会の方々に草刈りをしていただいているので、侍従会としても応分の作業を行う必要があると常々思っていたので丁度良い機会と思い作業を行いました。



回収したゴミ袋(7袋分)と
掲示板

ピカピカタンポポだより

横浜市立大道小学校 鷺谷康子

侍従川に親しむ会の皆様、こんにちは。今年度から玉利先生に代わり大道小学校・環境担当になりました鷺谷康子です。どうぞよろしくお願いいたします。

5月18日(水) 春の侍従川・トンボ池清掃

大道小学校恒例の春の清掃が、おこなわれました。

今年は、侍従川でのワニガメの目撃などがあり、少し心配したのですが、侍従川に親しむ会の皆様からいろいろ情報をいただき、事前指導を行い無事に行うことができました。



いつも周りを通り身近な川のはずなのですが、普段は入れない侍従川。ごみ拾いもしましたが、生き物・自然に触れる貴重な時間になりました。

天気も良く、水の流れも穏やか。「つめたい」「深い!」とはじめは恐る恐る動く様子だった子たちが、少し経つとすぐに慣れて、水そのものに喜ぶ姿が見られました。魚を追いかける姿やあちらこちらで、「ヤゴがいる!」「かにをつかまえたよ!」「あっちに、さかながにげた!」と生き生きした子どもたちの声が、聴かれました。

たくさんの侍従川に親しむ会の方々に参加していただき、またいろいろな形で活動を支援していただきました。ありがとうございました。



侍従川・トンボ池清掃、次回は秋を予定しています。また、よろしくお願いいたします。

◎大道小学校トンボ池エコアップのお知らせ

6月25日(土) 10時~12時にトンボ池のエコアップを行います。作業のサポート、子どもたちへの生き物のガイド・安全確保のサポートなど、ご協力いただける方は、大道小トンボ池前に集合してください。よろしくお願いいたします。

琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～
～ トクノシマノコギリクワガタ ～



学名 : *Prosopocoilus dissimilis makinoi*

体長 : ♂28～75mm、♀25～39mm 分布 : 徳之島 (鹿児島県)

沖縄諸島から奄美群島、トカラ列島に広く分布するリュウキュウノコギリクワガタの徳之島亜種。他亜種と比べると体の幅が広く、全体的に太短い印象を受ける。奄美大島亜種のアマミノコギリクワガタに次いで、大型になる傾向があり、徳之島ではミカン畑などで大きな♂個体がよく見つかる。黒色型と褐色型があり、黒色の個体が多い。

監修 : 熊井 (沖縄在住)



トピックス

3/27 (日) 道とん堀朝比奈店にて卒業パーティが開催されました。

4/2 (日) 「春を味わおう! 野草パーティー」は雨天のため中止

4/16 (月) 大道小学校との話し合い

[大道小学校] 富岡校長先生、柴田先生、鷲谷先生

[侍従会] 細川、河本、飯村、佐野、山田が出席

5/18 (水) 大道小学校 侍従川&トンボ池清掃…細川、八木場、西澤、山田が対応

5/24 (火) 杜チャイルド園が侍従川で魚捕り…山田が対応

※ ふるさと侍従川に親しむ会は、環境教育出前講座 (横浜市環境創造局政策課プロモーション担当) 「身近な自然・生きものを知ろう!」に登録しています。環境教育出前講座のお申し込みは、政策課プロモーション担当 0456712484 まで



朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～ 飯村優介

☆欧州特集☆

四月にオーストリアのウィーンの展覧会旅行がありました。

ここではウィーンのおいしい野草や街から一時間半で行けるウィナーアルプス、市内の旧ドナウ川などの自然を紹介します。

四月半ば、ウィーン市内のプラーターの森やウィーンの森にはベローフといううまい野草が群生してます。シンプルに炒めたり餃子にいれたりしてました。日本の高冷地に生える行者ニンニクに近いです。ネギとニンニクを混ぜたような味でした。

ちょっと電車で行って35kmくらいの距離、高さ1948mの山をぐるりと回ることもしてきました。新緑、桜、岩山、残雪とどんどん様子が変わる気持ちのいい山旅で、西洋カモシカにも出会いました。

市内にもどり、旧ドナウ川も豊かな自然と濃い魚影が楽しめました。

葦原や濃い魚影は侍従川と共通するものを感じました。



ベローフ



ウィナーアルプス



西洋カモシカ



旧ドナウ川



虫のきょういく座談会 ～ヤゴ図鑑ができるまでの裏話～



参加者：梅田・山田・佐野

2016年1月のある日、金沢文庫のダイエーの中にある「しゃぶしゃぶ牛太」に怪しい3人組が集結した。メンバーは怪しい人物の筆頭山田氏、筆者佐野に加えて侍従会結成時のメンバーであり、山田氏の同級生でトンボの専門家の梅田氏である。梅田氏は2015年末に、横浜で記録のあるトンボを中心としたヤゴ図鑑を出版された。というわけで、この日は梅田氏のヤゴ図鑑出版祝い会と称した集まりが行われたのだった。

梅田「山田くんまた太ったんじゃないの？しゃぶしゃぶなんか食って大丈夫なの？」

山田「先月も侍従会の忘年会でしゃぶしゃぶ来たばっかりだよ！」

佐野「そうですね(笑) ていうか梅田さんはここ数年で痩せましたよね? いい感じで減量した感じですね!」

梅田「そうなんだよ! 徐々にね! やっぱり痩せるコツは、いきなり痩せたって思われなように痩せるのがコツだよね!」

山田「奥さんに食事制限されてるんでしょ?」

梅田「大変なんだよ!」

山田「梅田くん外ではマックとかポテチとか食べたがるよね(笑)」

佐野「そういえば一緒にオーストラリアに行った時も毎日ケンタッキーでしたよね(笑)」

梅田「いやいやいや(笑) でも山田くんもそろそろ年齢考えた方がいいよ?」

山田「そんなことを言われる日が来るなんて若い頃は思いもしなかった…ショック…」

梅田「山田くん今いくつになるんだっけ?」

山田「よんじゅ…ってタメじゃんかよ!!」

梅田「ああははそうか!(笑)」

お決まりのくだりである。こうして前半戦はオジサンたちの健康話で盛り上がった(?)。中年の深刻な悩み相談である。

そしてひとしきり肉をお腹に入れたところで、山田氏がようやく本題を切り出した。

山田「ヤゴ図鑑もつくり始めてからずいぶん時間かかったよね~ 梅田くんの的なこだわりはどこなの?」

梅田「そりゃこだわりは色々ありますよ!! 例えばウチワヤンマの幼虫が泳ぐ写真とか!?☆」

佐野「あれヤラセじゃないんですか?」

梅田「ヤラセじゃないよお!!(笑) 池の前でずっと待ってて撮ったんだよ!」

山田「おおさすが気合い入ってるねえ!」

さて、読者の方の中にはウチワヤンマの幼虫が泳ぐ? 何がそんなに凄いのか? と思われた方もいるかもしれないので解説させていただく。ウチワヤンマのヤゴは、普段水深の深いところで生活しているため、簡単には見つけられないのである。しかし、生涯一度だけ、浅い場所にやってくる時がある。それが羽化の時なのだ。ウチワヤンマは羽化が近づくと池の深部から泳いで岸边にやってくる。ヤゴ図鑑に掲載された写真はその瞬間をとらえたものなのだ。

佐野「フチトリベッコウなんかはプロが見ても目にとまりそうですね!」

梅田「まあねえ~ やっぱ専門家が見ても「おっ?」って目にとまるネタを仕込むつちゅーのはこだわりだよな!」

「フチトリベッコウ」とは東南アジアに生息するフチトリベッコウトンボのことだ。も

ちろん台風などにより迷入したもののだが、横浜市で1例が記録されている。梅田氏はここに目をつけて、海外にフチトリベッコウトンボを採りに行き、撮影したヤゴを掲載したのだった。おそらく日本では初のフチトリベッコウトンボのヤゴの生体写真を載せた図鑑だろう。まさに梅田氏のこだわりである。

山田「サノシンもいつか図鑑とか出したいんじゃない？」

佐野「そうですね～ 夢はありますよね～」

梅田「あとはどこの出版社に持ち込むかちゅーのもポイントだよ！」

山田「生き物系だと農文教とか文一総合とか東海大とか有名だよな？」

梅田「まあ出版社によって特徴はあるんだけど、大手過ぎるとやっぱりライバルがいるんだよな！」

佐野「なるほど！ お得意の昆虫写真家とか研究者がいると確かに空きがないかもしれないですもんね！」

梅田「そうなんだよ！ だから俺は普段そこまで自然系は出してないけど、自然系に理解のある出版社を狙ったんだよな！」

山田「なるほどね！！ 俺たちも侍従川で本出したいのおサノシン～」

梅田「でも読み物系で売ってっていうのも結構大変だぞ！」

佐野「確かに図鑑の方が需要はありそうですね！」

山田「図鑑かあ～…」

梅田「山田くんはいつもピンボケの写真送ってきて「このヤゴなに？」みたいな(笑) アレじゃダメだよなあ～(笑)」

山田「だって見えないんだもん！(笑)」

こうして我らはしゃぶしゃぶ牛太を後にした。

山田「あっそうだ！ 梅田くん！ 図鑑にサインちょうだいよ！」

梅田「サイン？ そんなもんじゃないよ！」

佐野「僕もお願いします☆」

梅田「まあじで？(笑) サノシンも？(笑)」

山田「あっすいません店員さん！ 記念写真撮りたいんで撮ってもらってもいいですか？」

梅田「ちょっとちょっと写真まで撮るの？ 恥ずかしいんだけど…(笑)」

そしてこの時撮影した写真がコレである。こうして今日の虫のきょういく座談会は幕を降ろしたのだった。ちなみにヤゴ図鑑の在庫は残り少ないそうなので、購入を希望している方はお早めに☆



佐野真吾が語る侍従会の思い出 ～今だから話せるマズイ話～

子どもの頃、ちょっと悪いことをしてしまって、それを今まで人には言えずにいた話…なんて、皆さんも一つや二つはあるのではないのでしょうか。私も侍従川で遊んでいた小学生の時にそんな経験があります。今では時効(?)だと信じ、謝罪も込めてお話をさせていただきます。

私が小学校高学年の頃(1990年代後半)、世間ではアニメや漫画の影響もあり、空前の釣りブームが到来していました。そしてそのブームに乗った私たちも毎日のように侍従川で釣りをしていました。そんなある時、川を埋め尽くすようなボラの大群が川を遡上して来た時がありました。侍従川ではボラの大群の遡上がしばしば起こります。海水と淡水が混じり合う侍従川の下流域はプランクトンが発生しやすく、そのプランクトンを捕食するために川に入って来るのだと考えられます。普段はちょっとした群れでいるボラですが、時々川を埋め尽くす程の大群になって遡上し、遡上は数日間続くのです。

その話を隣のクラスの友達に聞いた私たちは、帰宅後早速侍従川に向かいました。行ってみると想像以上のボラの群れが侍従川を埋め尽くしていました。私たちは早速釣りを開始しました。当時流行っていた釣りはおレアーフィッシングでしたが、侍従川で釣るコイやボラやハゼがレアーでは釣れないことは分かっていたので、釣り針に潰したパンを付けるという簡単な餌釣です。ボラの大群の中に糸を垂らすと簡単に釣れました。まさに入れ食い状態です。いつもになくバンバン釣れるため私たちは興奮してしまいました。

そのうち少し遅れてやって来た友達がありました。「どう?釣れる?」「メッチャ釣れてるよ!入れ食いだよ!」友達が来たタイミングでまたヒットした私は得意になって「ほら!またきた!」と勢いよく竿を引きました。するとボラは勢いよく水から引っ張り出されたため針が口から外れて空を舞いました。「おお!!」そして空高く飛ばされたボラは私の頭上を通りすぎガシャーンとガラスが割れる音とともに姿を消したのです。

「・・・」一瞬にしてその場の空気が変わりました。勢いよく引っ張られ飛ばされたボラは私たちの背後にあった家の二階の窓を突き破って部屋に入ってしまったのです。「どうする?…」

「どうしようか?…」「絶対怒られるでしょ…」「誰も出て来ないね…」「逃げるか…」こうして私たちはその場を立ち去ってしまったのです。



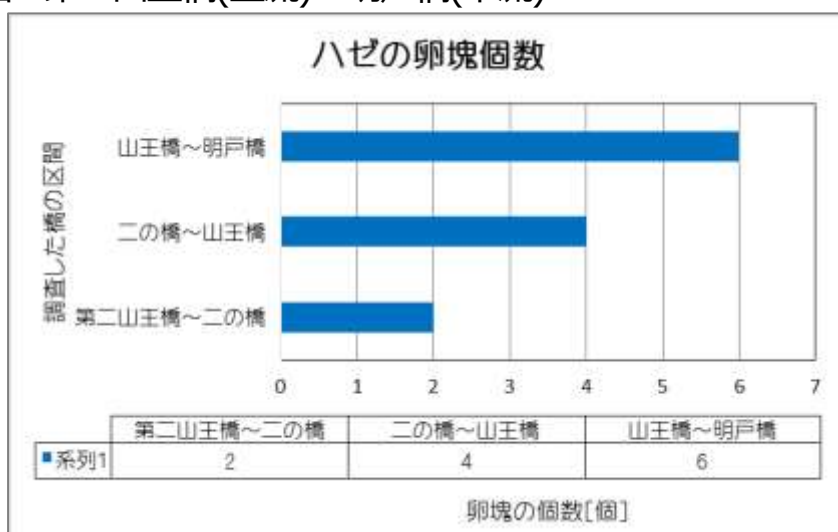
それから何か月かして、その家の前を通ったら窓は新しく張りかえられていました。その家の方は、帰られたら窓が割れていて、さらには部屋にはボラがいたでしょうからさぞ驚かれたことでしょう。我ながらに当時はガラスを割ってしまったことと逃げてしまったことに罪を感じて申し訳ない気持ちでいっぱいでした。しかし、それから10年程経ってからでしょうか。その家は無くなり新しい家が建ちました。あの家の方はどこかに引っ越されたのでしょうか。今でもボラで窓を割ってしまった家があった道を通るとあの時のことを鮮明に思い出し、「あの時は本当にすみませんでした！」と深く反省するのですでした。

侍従川水系におけるハゼ類の産卵地点調査報告(学生部)

2012年から実施しているハゼ類の産卵地点調査を今年も実施した。侍従川では春先から初夏にかけてハゼ類(チチブ、ウキゴリ、シマヨシノボリ等)の産卵が確認される。そんなハゼ類の産卵箇所の調査を実施した。

以下に今回の『ハゼ類産卵調査』の調査報告を示す。

- 調査日時：2016年4月24日(日)_13:00～
- 調査方法：下流から石の裏を確認していき、卵塊の数及び地点名を記録した。また、卵塊の面積及び卵塊が付着した石の面積、水深を記録した。
- 調査範囲：第二山王橋(上流)～明戸橋(下流)



	調査した橋の区間	卵塊の個数	石の大きさ [cm]	卵塊の大きさ [cm]	水深 [cm]	卵塊の色
上流 ↑	第二山王橋～二の橋	1	16×10	4×3	10	金色
		2	16×2	4×3	15.5	マウス色
	二の橋～山王橋	3	16×10	4×4	5	茶色
		4	13×8	3×2	7.5	黄色
		5	20×12	7×4.5	10.5	灰色
		6	15×12	5×4	19	白色
下流 ↓	山王橋～明戸橋	7	14×13.5	5×4	10	白色
		8	17×14	10×9	9.5	白色
		9	16×10	6×4.5	10	白色
		10	14×8	7×4	4.5	アイボリー
		11	18×8	5×4	6	灰色
		12	18×11	5.5×2.5	26	黄色

侍従川定例調査報告 学生部

2016年4月24日(日) 13:00~15:00

【調査範囲】六浦二号橋(下流域)~第二山王橋

【確認した生物】カワニナ、イシマキガイ、ハグロトンボ(幼虫)、コシボソヤンマ(幼虫)、ミゾレヌマエビ、テナガエビ、クロベンケイガニ、ヒナハゼ、ビリンゴ、ウキゴリ、スミウキゴリ、チチブ、クサガメ

侍従川生物リスト改定版(2016)学生部編が完成しました。ホームページからご覧ください。

<http://jijyukai.web.fc2.com/>

【備考】ワニガメの死骸を長島橋~大道東橋で、ハクビシンの死骸を明戸橋上流で発見。

事務局だより

事務局 金澤 由香

◆6月~9月の活動予定◆

☆定例クリーンアップ 6/26(日)、7/24(日)、8/28(日)、9/25(日)

9時~12時 ちとせ園集合 ※雨天延期・翌週日曜

持ち物:川に入れる格好、タオル、軍手(必要な人)、網(使いたい人…貸出あり)、着替え(心配な人) ※川の上からの参加でも構いません

☆8/13(土)~14(日) ジュニアキャンプ in 野島

☆9/24(土) ハゼ釣り大会 ※詳細はホームページ及びメーリングリストで

■学生部の活動は追ってお知らせします。

●平成28年度会費納入のお願い

4月から新年度になりました。新年度分の会費の納入を**6月中**にお願いいたします。

現金での支払いは間違いのもとになりますので、必ず郵便局払込票で支払ってください。

なお、今年度から、払込料金は**払込人負担**(青色の払込取扱票)とさせていただきます。

ご理解・ご協力をお願いいたします。

口座記号番号:00230-5-68634 加入者名:ふるさと侍従川に親しむ会

年会費:大人3,000円 大学生以下1,500円

ふるさと侍従川に親しむ会事務局 金澤 由香

TEL:090-4072-8485 e-mail:jijyukai@gmail.com

《編集後記》長年、侍従会の活動を支えていただいた事務局の長橋さんと会計の田辺さんが交代することになりました。長橋さん、田辺さん、長い間お疲れ様でした。スタッフには新メンバーが加わりましたので、これまでと同様によろしく願います。(MK)